2020年度大学院 研究・制作・発表助成　審査結果・総括

2020年度大学院 研究・制作・発表助成の審査の結果、以下の申請に対して助成を行うことを決定しました。

申請者	所属（芸術専攻）		申請形態 グループメンバー	申請テーマ
手塚一佳	博士	1年	シャンツァー・アルマ 古澤 京子 北　桂樹 石川　宝 武 欣悦	秋期関東共同研究展覧会（京都芸術大学大学院2020年度生 関東分科会主催 学際展示展覧会）「あたらしい当たり前のかたち」 -2020年前半 コロナ禍中の京都芸術大学院生たちによる研究制作報告-
古澤京子	博士	1年	個人	学校教育における総合的映画教育プログラムの確立 －教員参加型プログラムの実践を通じて―
岸本洋一	博士	2年	個人	史蹟顕彰碑および戦前期青年団の史蹟顕彰事業に関する調査
青海伸一	博士	2年	個人	近代日本人の営みの記憶、行為の記憶のアーカイブとしての 博物館展示研究
石川　宝	修士	1年	個人	出版文化を社会学し、出版する
登玉梓沙	修士	1年	個人	自然と人類の共生をテーマとした絵画の制作・発表
御村紗也	修士	1年	個人	シルクスクリーン作品を中心とした制作、作品発表を通して 絵画におけるシルクスクリーン表現の可能性を広げる。
孫天宇	修士	2年	個人	登場人物の視点を用いた「島」のドキュメンタリー映像の制作 に基づく、地理環境の影響による日本の「民族性」や地域ごとの 差異性についての研究
叶　新曦	修士	2年	個人	行為と製品連携の関係をデザインするデザイン手法の開発
堀口真貴乃	修士	2年	王以琳	空間　×　テキスタイル 新たなライフスタイル　―生きる空間―

申請者は、６月１１日（木）までに実施計画書を教学事務室へ提出してください。

2020 年度 大学院研究・制作・発表助成審査会総評

- 今年度は 10 件の申請があり、厳正な 1 次審査、2 次審査の結果、助成額はそれぞれ異なりますが、申請された 10 件全てが採択されました。内訳は、研究系が 4 件、制作系が 5 件（そのうちグループが 1 件）、研究系と制作系の共同によるグループが 1 件でした。制作系のグループは美術工芸領域（テキスタイルデザイン）と環境デザイン領域（建築）のコラボレーションによるものであり、もう一つのグループは、研究系と制作系だけでなく、博士課程 1 年生 4 名と修士課程 1 年生 2 名から構成されており、領域横断のみならず学年縦断という新しい要素も含まれるなど、本学大学院の可能性をさらに新しい次元へ押し広げてくれるような可能性を感じさせる申請を助成する結果となりました。

- 1 次審査では、12 名の審査員が申請書の内容を基に審査をおこないました。審査は、領域横断的な視点の有無を考慮しながら、募集要項の「採択基準」に①～⑤として明示された諸点を評価ポイントとして実施しました。審査員による採点により、この評価ポイントを十分に満たさないと判断された申請は、この時点で不採択となりますが、今年度は 10 件ともこの「採択基準」を満たしていると判定されました。

- 2次審査は、3 名の審査員による面接形式で行い、申請書類だけでは分からなかった点について確認しました。直接話を聞くことで、助成の必要性を改めて認識できた反面、テーマや研究対象の根拠が不明確であったり、テーマを実現するための助成費目の必要性が十分に示されないケースもありました。

- 1 次審査、2 次審査の内容を厳正かつ公平に検討した結果、不採用となる申請はありませんでしたが、「助成費目の必要性と金額の妥当性」を精査した結果、いずれの申請についても申請額から減額しての助成です。結果として、限られた全体予算を今年度も有意義に配分できたと判断致します。

- この助成制度は、次年度も実施する予定です。M1, M2（博士課程進学を検討している人）, D1, D2 の皆さんはこの総評を参考にして、ぜひ次年度もチャレンジして下さい。

（文責：芸術専攻修士課程専攻長　河合　健）